インドネシアに新農場を

施設園芸の技術指導へ　帰国した実習生支援

田原でウィズ総会

住民や企業、団体と連携し、田原市のまちづくりに取り組むＮＰＯ法人渥美半島まちづくり推進機構（通称・Ｗｉｔｈ＝ウィズ）は29日、同市福江市民館で総会を開き、伊良湖トライアスロン大会の運営、新規の国際協力事業などを行う今年度事業計画などを承認した。（中村晋也）

あいさつする石倉副理事長＝田原市福江市民館で

欠席の渡会一昭理事長に代わり、石倉一造副理事長は「ウィズを立ち上げ、7年目。地域産業を発展させるため、渥美半島の底上げをする組織としての役割を果たしたい」とあいさつした。

来賓の山下政良市長は「渥美地区で残したいのは、トライアスロン大会、繰り糸始め、ヤシの実流し。この三つは他にない。皆さんと共に渥美半島を元気にしていきたい」と今後の活動に期待を寄せた。

今年度は、新規の国際協力事業として、東南アジアのインドネシアで現地の非営利団体と協力し、田原で盛んな施設園芸農業の技術を指導するためのトレーニング農場を開設する。農業の技術実習生が帰国した際、日本での経験を生かせるよう栽培技術、販路開拓などで支援する。農業専門家らも派遣する。また、実習生の日本滞在をサポートする。

9月にトライアスロン大会

観光振興事業では、引き続き伊良湖トライアスロン大会（9月8日）を受託し、運営。渥美半島観光ビューローが主催する「菜の花まつり」の一部を受託、設営やインフォメーション業務、会場管理にあたる。

役員改選も行い、渡会理事長は再選された。

ミューズ　相続Q&A

第362回

遺言の証人はだれでもなれる？

先日、豊橋の公証役場で公正証書遺言の証人をしてきました。遺言には自筆証書と公正証書遺言があります。

自筆証書遺言は字のとおり、自分で書いて、自分で残すのですが、公正証書は公証人、そして証人二人の立ち合いのもとに内容確認をし、公証役場が原本をあずかります。

ではこの公正証書の二人の証人はどんな人に頼めばよいでしょうか？また証人とはどんな役割があるのでしょうか？まずは遺言書を書いた人が間違いなく本人であるということの確認をします。

また遺言を書いたのが間違いなく本人の意思であるかということを確認します。最後に公証人が作成した遺言書の内容が依頼した

知事・県議会正副議長・市長・市議会議長・町長・村長の予定（31日）

【大村知事】第4回2023年技能五輪国際大会致委員会（前10時、JR

川で「花しょうぶまつり」⑩
ビ……㊻　BSラジオ㊼
蒲郡・海陽ヨットハーバーで
初企画の音楽イベント　⑨面

東愛知新聞
6月9日日曜日
【大安】
発行所：東愛知新聞社 〒441-8016 豊橋市新栄町字鳥畷62 電話0532(32)3111
ホームページ：http://www.higashiaichi.co.jp

帰国後も農業実習生支援

施設園芸を指導　トレーニング農場開設へ

インドネシアに田原のNPO・ウィズ

住民や企業、団体と連携し、田原市のまちづくりに取り組むNPO法人渥美半島まちづくり推進機構（通称・With＝ウィズ、渡会一昭理事長）が、外国人農業技能実習生のサポート事業を始める。東南アジア・インドネシアに施設園芸の技術を指導するトレーニング農場を開設。同国へ帰国した実習生が、日本での経験を生かせるよう支援する。市内での実習も、地元の高校生の力も活用しながら支える。（中村晋也）

施設園芸が盛んな田原市は、1000人を超える外国人農業技能実習が在留。ウィズは、メンバーと縁があるインドネシアで技能実習生の帰国支援を行っている現地非営利団体（フルサト財団）と交流する中、帰国後に日本での経験を生かせていない現状を知った。

このため、現地非営利団体の活動地の一つで、日本へ技能実習生として出向く若者が多い地域バトゥ市に同団体と協力し、トレーニング農場を開設する。

また、田原市内での技能実習についても、「貴重な産業の担い手」のためインドネシアに限らず、地域ぐるみで支援していく。

この国内外での取り組みは今年から3カ年かけて、日本国際協力財団（東京）から助成を受けて進める。今年度の助成金は1100万円。

具体的には、バトゥ市では、帰国した農業の技術実習生が、日本での経験を生かせるよう品種選択や栽培技術、販路開拓などで支援。メロンやイチゴ、ミニトマト、野菜栽培などを研修し、プログラムの確立を目標にする。現地の農業高校生を対象にした就業体験も計画。ウィズから定期的に農業専門家やスタッフらも派遣する。

計画では、農場は広さ1万平方㍍でフレームの温室3棟、トイレなどを建設する予定。

農場が現地団体により持続的に運営されることを目指し、将来的には田原市とバトゥ市の継続的な交流活動も視野に入れる。

田原市内では、実習生の日本滞在をサポート。地元の高校に協力してもらい、交流会や先進農場視察、帰国後にも活用できる栽培方法の映像の制作も計画している。

初夏の風物詩「夜店」

納涼まつりでにぎわう豊橋公園

「夜店」の呼び名で親しまれている豊橋の初夏の風物詩「納涼まつり」（実行委員会主催）が今年も豊橋公園内で始まり、大勢の子どもや若者、

中日新聞　2019年（令和元年）8月28日（水曜日）　東三河　12

技能実習 母国につなげ

田原のNPO法人 交流会や帰国後の支援も

七輪を囲む福江高生徒と実習生ら＝田原市の福江高で

全国屈指の農業生産額を誇る田原市のNPO法人「With（ウィズ）」（福江町）は、外国人技能実習生が安心して市内で暮らし、帰国した後も農業を続けられるよう支援する事業を三カ年計画で始めた。地元高校生との交流会や、インドネシアのバトゥ市の公益財団法人と連携したトレーニング農場の開設、農業経営の講座などを計画している。（鈴木弘人）

「おいしいね」。インドネシア、ベトナム、中国の実習生と高校生が七輪を囲んで交流を深めた。二十五日、田原市の福江高校で第一弾の企画としてバーベキューを開催。実習生二十五人と福江高生十人が参加した。昨年七月に来日し、トマト農家で実習するインドネシア人のハスミナ・メラ・セプティさん(二〇)は「地元の人と話す機会が少ないので楽しかった」と話した。

市内で実習する外国人は千八十一人（三月末現在）。増加傾向にあり、半分以上は農業に従事している。制度の改定で実習期間が最大三年間から五年間となり、さらなる実習生の増加が見込まれている。

ウィズの榊原寛克専務理事(七〇)は「多くはお金をためる目的で来ており、帰国してからも農業を続ける実習生はごくわずか。優れた技術を持つ農家が多い田原での経験を生かしてもらいたい」と話す。

バトゥ市のトレーニング農場は来年度までに完成予定で、インドネシアに合う作物を模索している。農場ができ次第、帰国した実習生の受け入れを始めるという。来年二月には、マーケティングや資金繰りなどを学ぶ「営農企業教室」を田原市で開催する。

問ウィズ＝0531（36）6882

東三河版

春リンドウ
冨樫章紀
新美術協会

ニュース、情報は下記へ
社会部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

豊橋総局 〒440-0806
豊橋市八町通4－52－1
0532-52-7181 Fax54-4655
岡崎支局
0564-22-1661 Fax25-1554
豊田支局
0565-24-1010 Fax25-1118
豊川通信局
0533-86-2305 Fax82-1575
新城通信局
0536-22-0242 Fax23-3811
蒲郡通信局
0533-68-2437 Fax66-1465
設楽通信部
0536-62-0269 Fax62-1577
田原通信部
0531-22-0269 Fax23-2889

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp

広告のお申し込みは
広告局三河アドセンターへ
岡崎 0564-23-3051（代）

掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

農業と共に歴史や文化学ぶ

外国人実習生と巡る田原

ウイズ

インドネシアなどの外国人技能実習生のサポート事業を実施しているNPO法人渥美半島まちづくり推進機構（通称・With＝ウイズ、渡会一昭理事長）が、田原市内の外国人実習生を対象に市内の農家や名所などを巡るツアーを実施した。

同市内では、1000人を超える外国人が農業技能実習を行っており、地域ぐるみの支援を進めている。

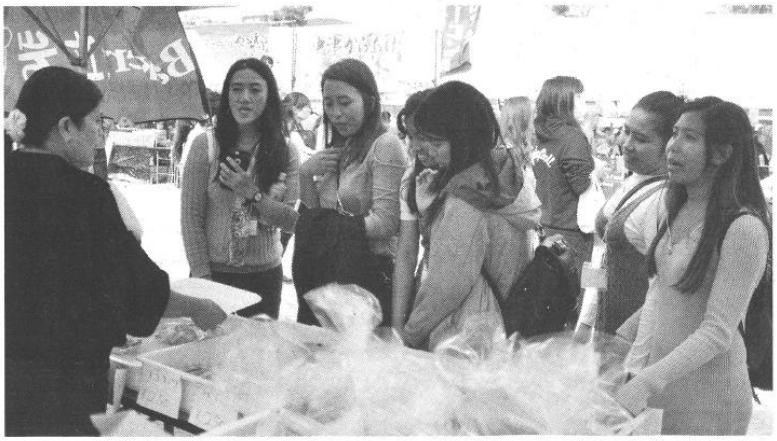
ツアーは、田原市民まつりが開催された今月27日に実施。受入先以外の農業の状況や、普段は知ることが少ない同市の歴史、名所を紹介し、田原への理解を深めてもらおうと企画した。地元の県立福江高校生徒も協力した。

実習生を募集したところ、インドネシアの18人とベトナムの8人、フィリピンの6人、中国の9人の計41人が参加。バスで巡り、酪農家の牛舎を見学したほか、歴史や文化を学ぶため市博物館を見物、昼食を兼ねて太平洋や三河湾を望める蔵王山頂上、市民まつり会場なども訪れた。

はなのき広場などで行われた市民まつり会場では、グループに分かれ、催しや飲食物販売などを見て回り、市民ともふれ合った。

フィリピンの女性たちは、出店していた他のフィリピン女性と出会い交流。「市民まつりは初めて」「蔵王山からの景色は美しい」などと日本語で感想を話した。

（中村晋也）



田原市民まつり会場を見学するフィリピンの女性たち＝田原市はなのき広場で

地域一丸で農業実習生支援

田原・ウィズがセミナー

外国人と渥美農業高生徒交流も

インドネシアなどの外国人技能実習生のサポート事業を実施しているNPO法人渥美半島まちづくり推進機構（通称・With＝ウィズ）が23日、田原市内の外国人技能実習生を対象に農業セミナーや交流会などを市内で実施した。

同市内では、1000人を超える外国人が技能実習生として滞在し、大部分が基幹産業の農業分野に従事。共生やサポートの充実が必要とし、地域ぐるみで支援を進めている。

外国人技能実習生と渥美農高生徒ら＝伊良湖ホテル＆リゾートで

この日は、インドネシア、カンボジア、フィリピン、中国の25人が参加。20代など若手が多く、地元の県立渥美農業高校の生徒たちも手助けした。

セミナーに先がけ、同校が制作した田原市を紹介する映像などを、同校の中丸惇平教諭が紹介。今後、農業の動画も作る。

セミナーでは、農業関連事業を展開するマーコ（田原市）の会長・青山房生さんが講師を務めた。

「外国人実習生がうちのパートナーになって27年目」という青山さん。「人を使う立場、使われる立場になるか、選択をする時が必ずくる。必要なのは、努力してお金をためておくこと。ゼロだったら何もできない。皆さんのところは、今から高度成長する」と述べ、「日本で少しのチャンスをつかみ、インドネシアやカンボジアなどに合った農業を」と助言した。

自社についても説明したほか、農業に関し「魅力ある農業にするには、泣き言を言わない、夢を語る、目的を持ったら前向きに努力する」と話した。

実習生や農高生徒らは昼食や菜の花畑見学でふれ合い、交流を深めた。

中国の女性実習生（20）は「国に帰ってからのことはまだ決めてないが、仕事はつらくなく、農産物の収穫も楽しい」と話した。（中村晋也）

荒行達成の修行僧3人

水行などで邪気を退散

豊橋の大法寺「開運祈祷祭」

豊橋市神野新田町中洲の大法寺で23日、開運祈祷（とう）祭があり、100日間の荒行を成し遂げた修行僧3人による水行式や木剣修法などが行われた。

3人は、西尾市圓融寺

修行僧を招いて行われた開運祈祷祭＝大法寺で